

令和 9 年度修士課程入学者選抜試験(令和 8 年 8 月実施)に係る試験方法の変更について

本試験は化学理工学専攻に属する分野（研究室）を 3 群（創成化学群、先端化学群、化学プロセス工学群（全て仮称））に分け、全群共通の時間割で実施します。各群に所属する分野は現在の創成化学、先端化学、及び化学プロセス工学コースに所属する分野にそれぞれ対応します。群によって試験科目が異なり、群をまたいで分野（研究室）を志望することはできません。

○英語科目（全群共通）

TOEIC テストの成績の換算により英語科目の成績とします。学力検査日から過去 2 年以内に受験した TOEIC Listening & Reading Test 公開テストの成績表の提出が必要となります。

【重要な変更点】

従前において先端化学専攻群（物質エネルギー化学専攻、分子工学専攻、合成・生物化学専攻）の入学試験で認められていた TOEFL テストおよび IELTS テストは利用することができなくなります。また、従前において 200 点だった英語の配点を、全群共通で 150 点とします。

○専門科目（全群共通）

時間割が変更されることに伴い、各群の試験科目についても下記に概略を示す再編成を行うこととなりますが、受験にあたっては従前通りの学習で対応可能な範囲での出題を予定しています。新たな科目設定については、令和 8 年 4 月下旬に公開予定の令和 9 年度修士課程学生募集要項にて公表します。配点は全群共通で〔専門科目 1〕が 500 点、〔専門科目 2〕が 300 点とします。

・専門科目の概要（創成化学群）

〔専門科目 1〕有機化学・物理化学（いずれも必須科目）

〔専門科目 2〕高分子化学*（必須科目）に加え、無機化学・分析化学・生化学から 2 科目選択（合計 3 科目）

*高分子化学は高分子合成・高分子物性からの出題とする

・専門科目の概要（先端化学群）

〔専門科目 1〕有機化学・物理化学（いずれも必須科目）

〔専門科目 2〕無機化学（必須科目）に加え、融合化学*・分析化学・生化学・化学工学から 2 科目選択（合計 3 科目）

*融合化学は有機化学・物理化学・無機化学からの出題とする

・専門科目の概要（化学プロセス工学群）

〔専門科目1〕移動現象（2題）・分離工学（2題）・粒子工学・プロセス制御・基礎物理化学・基礎有機化学の8題から5題選択

〔専門科目2〕化学工学量論（熱力学含む）・化学工学数学・反応工学（2題）・プロセスシステム工学の5題から3題選択

【重要な変更点】

創成化学群：従前の試験において「有機化学」および「物理化学」にはそれぞれ「高分子合成および高分子物性を含む」と注記されていましたが、本試験における専門科目1の「有機化学」および「物理化学」ではこの注記を撤廃し、高分子合成および高分子物性を「高分子化学」として統合し、専門科目2で必須問題として出題します。

化学プロセス工学群：専門科目2の選択科目であった基礎物理化学と基礎有機化学を、専門科目1の選択科目とします。このほかの選択科目については変更ありませんが、選択すべき問題数が増えることになります。専門科目1においては従前の4題選択から5題選択に、専門科目2においては従前の4題選択から3題選択に変更されます。

なお、全ての群において、新たな選択科目の追加や、出題範囲の変更を伴わない科目名変更が行われる可能性があります。